

2018年度事業報告書
(平成30年度)

学校法人彰栄学園

I 法人本部

1. 法人の概要

(1) 法人本部の住所・電話番号

〒112-0001 東京都文京区白山4-14-15 ☎03-3941-2613

(2) 学校法人彰栄学園の沿革

1896年(明治29年)	学校の創立。東京幼稚園保姆養成所開設。後に東京保姆伝習所と改称。
1917年(大正6年)	東京府より正式な保姆養成学校として認可を受ける。
1954年(昭和29年)	東京保育女子学院と改称、文部省より幼稚園教諭養成所として認可を受ける。
1976年(昭和51年)	専修学校となり彰栄保育専門学校と改称し、男女共学となる。
1978年(昭和53年)	厚生省より保姆養成所としての認可を受ける。
1989年(平成元年)	厚生省より介護福祉士養成施設として認可を受け1年課程の介護福祉科を設ける。更に1991年(平成3年)から2年課程介護福祉科を増設する。
1992年(平成4年)	彰栄保育福祉専門学校と改称。
1996年(平成8年)	創立100周年を迎える。
1998年(平成10年)	彰栄表現研究所の設置。
2004年(平成16年)	彰栄リハビリテーション専門学校開校し作業療法学科を設ける。 更に2005年(平成17年)夜間部を増設する。
2015年(平成27年)	文部科学省より保育科が職業実践専門課程として認定される。
2016年(平成28年)	文部科学省より作業療法学科昼・夜間部が職業実践専門課程として認定される。 創立120周年を迎える。

(3) 設置する学校及び表現研究所

①彰栄保育福祉専門学校		学 校 長	鈴木康洋		
住 所	東京都文京区白山4-14-15	TEL	03-3941-2613	FAX	03-3946-4710
設 置 学 科	文部科学省指定 幼稚園教諭養成機関				
	厚生労働省指定 保育士・介護福祉士養成施設				
	学 科	修業年限	入学定員	総 定 員	
	保 育 科	2年	120	240	
	介 護 福 祉 科	2年	40	80	
	介護福祉専攻科	1年	40	40	
	計		200	360	

②彰栄リハビリテーション専門学校		学 校 長	校長代行 森倉麗子(10月1日～)		
住 所	東京都板橋区板橋1-42-15	TEL	03-5943-0411	FAX	03-5943-0412

設 置 学 科	厚生労働省指定 作業療法士養成施設			
	学 科	修業年限	入学定員	総定員
	作業療法学科昼間部	3年	40	120
	作業療法学科夜間部	4年	40	160
	計		80	280

③彰栄幼稚園		園 長	津村利治
住 所	東京都文京区白山4-14-15	TEL 03-3941-1239	FAX 03-3946-4710
クラス	クラス	定 員	
	つぼみ(3歳児)	35	
	わかば(4歳児)	35	
	みどり(5歳児)	35	
	計	105	

④彰栄表現研究所		所 長	福田理恵
住 所	東京都文京区白山4-14-15	TEL 03-3941-2613	FAX 03-3946-4710

(4) 学生・園児数(2019年3月31日現在)

No.	学校名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	合 計
1	彰栄保育福祉専門学校	93	100			193
	保育科			
	介護福祉科	5	2	7
	介護福祉専攻科	9	9
2	彰栄リハビリテーション専門学校					
	作業療法学科昼間部	40	40	35	115
	作業療法学科夜間部	29	23	31	32	115
3	彰栄幼稚園	28	26	26	80
	合 計	204	191	92	32	519

(5) 教職員の状況(2019年3月31日現在)

No.	学校名	専任教員	兼任講師	専任事務 職 員	パート・派 遣教職員	合 計
1	彰栄保育福祉専門学校	17	37	3	1	58
2	彰栄リハビリテーション専門学校	13	30	2	6	51
3	彰栄幼稚園	7		1	1	9
4	学園本部			3		3
	合 計	37	67	9	8	121

① 校長・園長は専任教員、常務理事は本部職員に加えた。

(6) 役員の状況 (2019年3月31日現在)

理事 9名
評議員 19名
監事 2名

(7) 定例理事・評議員会の主な審議事項

回	期 日	主な審議事項
第1回	5月21日(月) 学園会議室	1. 2017年度事業報告(案) 2. 2017年度収支決算(案) 3. 2017年度監査報告 4. 役員人事(案) 5. 介護福祉科学生募集停止の1年延期(案)
第2回	9月10日(月) 学園会議室	1. 保育福祉学則変更(案) 2. 役員人事(案)
第3回	12月10日(月) 学園会議室	1. 教職員人事(案) 2. 役員人事(案) 3. 彰栄リハビリテーション専門学校臨床実習施設追加(案)
第4回	3月4日(月) 学園会議室	1. 教職員人事(案) 2. 役員人事(案) 3. 2019年度事業計画及び収支予算(案)

(8) 主な諸規定の策定及び改定

- (1) 「理事会会議規則」
- (2) 「常務理事会設置規則」
- (3) 「理事会業務権限委譲並びに業務執行規則」
- (4) 「専門学校の校長、副校長及び教頭並びに幼稚園の園長等に関する規則」
- (5) 「コンプライアンス推進規程」
- (6) 「同委員会規程」
- (7) 「同委員会調査委員会規程」
- (8) 「公益通報に関する規程」
- (9) 「ハラスメント防止啓発に関する規程」
- (10) 「役員懲罰規則」
- (11) 「文書取扱い規程」
- (12) 「文書保存規程」
- (13) 「役員報酬規程」
- (14) 「経理規程」
- (15) 「就業規則(給与規程)」

(9)第1回コンプライアンス研修

期日 平成30年12月18日

講師 公認会計士梶間栄一氏

今後の研修の参考とするため「本学園の財務状況」について研修を行った。

(10)板橋校舎2号館校舎建築

構造	鉄骨造 地上10階地下1階
延床面積	1853.72 m ²
建築面積	259.82 m ²
敷地面積	440.62 m ²
着工日	2017年12月1日
引渡し日	2018年10月30日

(11)平成30年度主な教育機器・修繕・図書充実の状況

保育福祉

品名
3号館トイレ補修工事
デスクトップパソコン一式
万年塀補修工事
3号館2階教室排煙窓用設備
3号館1階入口改修工事
アミティエホールWi-Fi導入工事
教職員研究室等ネット環境整備

図書（書籍・新聞・DVD等）

リハビリ

品名
加湿空気洗浄機2台
軽量スチールホワイトボード
両面スチールホワイトボード
折り畳みテーブル
簡易上肢機能検査ステフ
コース立方体組み合せテスト
ストップウォッチ
ノギス知覚計オイレンブルヒ式
ディスクリミネーター

リバーミード
感覚検査用筆

図書（書籍・新聞・DVD等）

幼稚園

品 名
冷風扇
屋外用ベンチ
クロス ZIP スクリーンパーテーション

(12) 学生・園児募集活動

1) 彰栄保育福祉専門学校

入試説明会等の企画名	実 施 日
入試説明会	5/12. 6/23. 7/14. 9/15. 11/17
サマーカレッジ	8/4. 8/18
春の学校見学ウィーク	3/23. 26
学校説明会	4/21
卒業生スペシャル	6/2
土曜見学会	4/7. 28. 5/19. 26. 6/23. 30. 7/7. 21. 9/1. 8. 29. 10/6. 20. 27. 11/24. 12/1. 15. H31 1/26 . 2/9. 16. 23
日曜見学会	H31 1/13. 14. 27
保育専門学校フェア 見学ウィーク	6/2～17
学校見学	随時受付
保育専門学校フェア	5/13. 7/29. 11/18. H31 3/24

(2) 彰栄リハビリテーション専門学校

入試説明会等の企画名	実 施 日
入試説明会	6/30. 7/21. 8/25
学校見学会	5/3. 5/4. 5/5. 5/12. 5/19. 5/26. 6/2. 6/9. 6/16. 6/23 7/7. 7/14. 7/16. 7/28. 8/4. 8/11. 8/18. 9/1. 9/15 9/17. 9/22. 9/24. 9/29. 10/6. 10/8. 10/13. 10/20 10/28. 11/3. 11/10. 11/11. 11/17. 11/24. 12/1. 12/8 12/16. 12/22. 12/24. 12/28. 12/29. 1/5. 1/12. 1/14

	1/19. 1/26. 2/2. 2/9. 2/11. 2/16. 3/2. 3/9
学校見学	随時受付

(3) 彰栄幼稚園

未就園児運動会招待	入園対象者
入園説明会	9/9. 9/26. 10/20
入園案内書	発送及び手渡し

(4) 専門学校コンソーシアム Tokyo

事業名	専門学校コンソーシアム Tokyo Tokyo しごと倶楽部 2018 (第9回)
事業内容	7月31日(火) 10:00~15:00 日本電子専門学校にて 専門学校コンソーシアム Tokyo に加盟する 11校が合同で企画実施。 保育士・幼稚園教諭・自動車整備士・ゲームクリエイター・トリマー ヘアスタイリスト・大工・歯科衛生士等 約29種の仕事体験ブース を設置。今回から企業とのコラボを実施。 他、キャリアカウンセラーによる適職相談コーナー 共催：東京都教育委員会 後援：公益財団法人 東京しごと財団 東京しごとセンター NPO 法人 若年層就業支援協会 協賛：共立メンテナンス 東仁学生会館 コカ・コーライーストジャパン(株) 協力：(株) 専門学校新聞社
参加者数	入場者 1,200名(幼児~高校生、社会人、保護者) スタンプラリー参加者 680名、アンケート回収 590名

II 彰栄保育福祉専門学校

1 2018(平成30)年度事業計画に対する事業報告

(1) 教育の基本方針

本校は、「愛と奉仕」を建学の精神とし、幼稚園教諭養成を 123 年間、保育士養成を 41 年間、加えて介護福祉士の養成を 31 年間担って今日に至る。この間、多くの国家資格保持者を世に送り出して来たが、本校卒業生に対する社会的評価は決して低くない。ましてや、人口の高齢化に伴う要介護者の増加や国の働き方改革(ワーク・ライフバランス等)の要請から、保育士や介護福祉士の確保は喫緊の課題となっている。しかしながら、18才人口減少の今日、本校のような小規模養成校にとっては歴史の長さだけでは

乗り切れない社会構造の変化や、人々の意識の変化が背景にあり、これらの社会的側面を正確に分析することなしに保育士、介護福祉士養成校としてこの先生が残ることは極めて困難であると言わざるを得ない。

(2) 教育計画

①養成課程について

本校は、幼稚園教諭養成については文部科学省の、保育士及び介護福祉士については厚生労働省の指定を受け、両省の指導に基づく規定養成課程に基づいて養成を行っている。特に2018（平成30）年度は、文部科学省の指示により、教職課程再課程認定申請及び保育士養成課程の見直し作業が実施された。介護福祉士養成課程については、2022（令和3）年度の国家試験完全実施前の2020年までに教育課程変更が予定されている。（※専攻科については2021年度）

②教員の研究の奨励と研修・研究機会の確保

養成校として、確固とした教育理念と質の高い教育は専門職養成には必要不可欠である。それを維持できることが即ち歴史を重ねて生き残れる要因とも言える。そのために、教職員は常に研鑽が必要だが、ことに直接教育指導に携わる教員の質確保が肝要であることから、教員の研鑽の機会として、各種研修会への参加、学会発表、研究紀要等（研究論文）の作成・掲載を支援するため、教員には研究手当を支給し、研究促進を図っている。

③教職員組織

本校のような国家資格取得が目的の小規模養成校においては、教職員集団の意思疎通と連携は不可欠の要素である。本校に入学してきた学生が、勉学に取り組む姿勢・モチベーションをあげるも下げるも、日頃の教職員の一挙一動が大きく影響している。ともすると教える者は常に上からの姿勢で学生を下に見て、知らず知らずの内に教員自身が己の姿を見失っている向きも無きにしもあらず。

本校は、学生支援と教職員同士の連携促進等の目的で、かなり以前より教職員による委員会組織が存在し、運営も定着しているが、教員の入れ替わりなどにより、半ば形骸化している点があるのも否めない。組織が存在するのみでは不十分で、それを実効性のあるものとして行くために、教職員各自の主体的に質を高める努力が必要である。特にこの点の反省を踏まえ、2018（平成30）年度は各種委員会の内規を整備した。各委員会が内規作成の作業を通して、委員会の目的やこれまで担ってきた作業内容を再確認することができたのは大きな成果であった。しかしそれらを全ての教職員が共有して、初めてスタートラインに立てる。

④担任制

本校ではそれぞれの学科創設当時から担任制を採ってきている。その理由は、専門職養成の使命として取得資格を用いて、100%就職を目指している関係から、在学中は勿論

職業訓練的要素を取り入れた教育指導を実施している。また、教育課程の約1/3が幼稚園や保育所そして福祉施設等でのいわば臨地実習が課せられているため、学生の個性を把握し、教員と学生の意思疎通を良くして学校内外において適切な支援が行えるようにするためである。これは歴代の校長の方針の下、先輩教員から引き継いで来た教育手段の柱である。担任制は教育経験の軽重に拘わらず、学生と向き合い、協働することを通じて教員としての資質を磨くことができる絶好の機会でもある。従って担任業務を負担に感じるようなことがあってはならないし、疎かに考えてはならない。近年4年制大学までもが担任制を採用する時代である。専門学校である本校教員はその意味を理解しこの仕組みを有効活用しなければならない。

(3) 介護福祉科（2年課程）2020年度学生募集停止

2018年度理事会決定により、2019年度学生募集において介護福祉科2年課程の応募者が、定員の半数程度確保できなければ、2020年度の募集を停止することになっていた。AO入試受験状況から、これ以上の応募は見込めないという判断から、9月理事会において募集停止が決定した。

3 その他

(1) 退学防止対策

少子・超高齢化の勢いは止まらず、この現象により本校のような保育士養成、介護福祉士養成校にとっては学生数減少に拍車がかかって厳しい状況が続いているひとつの要因である。本校も例外でなく、東京都文京区白山という好立地にありながら、ここ10年程は受験者の減少が続いているばかりでなく、入学したにもかかわらず退学していく学生が増えて来た。この問題に対処する一方法として、2016（平成28）年度よりスクールカウンセラーを配置している。幸いにしてこれが徐々に効果を上げている。しかし更に効果を上げるためには、教職員各自がカウンセラー任せの意識を捨て担任制度を最大限活用する意識、即ち主体的に学生支援の実践を積み重ねることが肝要である。また同時に、学校存続の根本である学生募集対策の抜本的な検討が必要であり、このことなくして諸対策が効果を見せることはあり得ない。

(2) 保育科学者対象の入学前講習について

保育科に入学して来る学生に対して、2013（平成25）年度から入学前講習を実施している。本校に入学してくる高校を卒業したばかりの学生にとって、資格取得の厳しさ、面白さ、やりがい等は簡単に理解できるものではない。また、せつかく夢と希望を抱いて入学した学生が途中で挫折しないように、入学前の段階から学園の雰囲気や授業内容について理解促進を図るためと位置づけている。

(3) 介護福祉士国家試験の受験促進

「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正に伴い、2017（平成29）年度より指定養成校卒業生も国家試験を受験する途が開かれた。但し、2017（平成29）年4月より5

年間は経過措置があり、指定養成校卒業生は、たとえ国家試験に不合格でも、または国家試験を受験しなくとも、卒業後直ちに介護職に就いて5年間就業することで、6年目より永久免許に変わるという取り扱いができる。しかし、本校では2017年度より全員に国家試験を受験させている。その結果、介護福祉専攻科については2017年度生、2018年度生とも全員合格であった。介護福祉科は2017年度1名不合格だが2018年度全員合格した。なお、2017年度不合格の1名も2018年度合格を果たした。

(4) 学校法人彰栄学園財務・学生募集の在り方検討委員会

2018（平成30）年11月21日付けで理事長より標記の検討委員会立ち上げと、各委員に対して、学園の財務内容を長中期的視点に立って分析・検討の上改善策の答申及び、法人設置の幼稚園並びに専門学校の、園児・学生募集対策を全面的に見直し、その改善策を現実的かつ具体的に答申するよう諮問された。これに従って第1回会議が12月8日開催された。答申は2019年2月14日付けで理事長宛に提出した。

Ⅲ 彰栄リハビリテーション専門学校

1. 教務関係

(1) 授業内実習、卒業生による実技指導

専門学校は実学を重視する。本年度においても、早期における高齢者施設、小児施設、職業関連施設などへの授業内実習を実施し、対象となる方や施設サービス、対応法などに対しイメージを持つことができた。このイメージを活用することで学校での授業の理解もしやすくなっている。

また、臨床実習に向けた実技の練習に地域の障害者グループであるゆりかもめの会に協力いただき、さらに、同じく実技習得のチェックとして実技試験の被検者として卒業生に協力していただいた。学生同士の練習では得られない実践的な経験の場であり、学生自身で自らの課題を発見し、臨床実習の準備に入ることができるようになってきている。

このような試みの成果として、ゆりかもめの会メンバーから「彰栄の学生は他の学生よりも接し方がいい」との感想を頂けるようになってきた。

このような成果が実感できるため、今後も続けていきたい。

(2) 基礎学力の底上げ

授業で学んだことをどれだけ忘れず、身についたかを確認するために、期末試験の他に、各期開始前の登校日に学力確認テストを実施した。学生にとっては、授業で学ぶことは単位を取るためのものであり、単位合格すれば忘れてしまうというものも多いのが現状である。このような学生に対し、あれだけ学んでも忘れてしまうのだということを実感してもらい、復習につなげるよう指導した。

まだ、始めたばかりではあるが、危機感をもって学ぶ学生は増えているように思われる。

1年時の基本的な勉強の仕方指導については、様々なレベルの学生がいる中で、どこに焦点を当てるのかが難しい面がある。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが制定されていない現状ではなおさらである。次年度に向け、これらを早期に制定して行く必要がある。

(3) 新カリキュラムに向けて

2020年度より新しいカリキュラム指針に則った養成教育が開始されることが、正式に決定された。授業単位、実習単位の増など、現状のままでは対応できない大掛かりな変更となっている。

まず、何が変わるのか、どのような対応が必要なのかの分析を実施し、カリキュラムマップの作製、新規に導入される授業プログラムに関する勉強会を実施。新たに「新カリキュラム移行準備」「シラバス改訂検討」「アドミッションポリシーその他理念整備検討」の3部会を立ち上げる段階にまでは至った。

(4) 実習関係

実習施設として登録されている施設数ではかなり充実しているが、実際には実習の引き受けは単年ごとに相談という施設が多い。また、地方施設の場合、地元の学生ならと条件付きの場合もある。このため、毎年、実習地確保は苦労している。

過去には、学生に実習地を公表する時期が遅れてしまうという事態になったこともあるが、担当教員を中心に早期から積極的に働きかけることで対応している。

今後は、新カリキュラム移行に伴い、実習施設の指導者に、講習会受講が義務付けられたため、対応が急がれる。これについては、副校長、学科長が東京都作業療法士連絡協議会に参加し、他校と連携していくこととなった。

(5) 心理相談員との連携

当校には学校カウンセラーはおらず、これまで教員が個々に対応してきた。しかし、相談件数が増加してきたこと、授業と相談業務を同一人物が実施することに困難が生じ、授業の特別講師として関わっている臨床心理士兼精神福祉士に協力を仰ぎ、2ヶ月に1回ではあるが、相談日を設けた。相談件数も毎回複数名あり、必要性は十分に感じられる。

今後は、学校の正式な取組として、方法等も含め整備する必要があると考える。

2. 国家試験関係

第54回国家試験における合格者数、合格率は以下の通りである。

	受験者数	合格者数	合格率
全国	6, 3 5 8	4, 5 3 1	7 1. 3 %
(新卒)	5, 1 3 7	4, 1 0 8	8 0. 0 %
(既卒)	1, 2 2 1	4 2 3	3 4. 6 %
彰栄リハ	7 9	5 5	6 9. 6 %
(新卒)	5 7	4 9	8 6. 0 %
(既卒)	2 2	6	2 7. 3 %

厚生労働省発表資料による

新卒、既卒を含む全体では全国が 71.3%に対して、本校が 69.6%と一歩振るわなかったが、新卒者で比較すると全国が 80.0%に対して、本校が 86.0%と他校に比べ健闘したことが分かる。

今回の国家試験の出題傾向としては、「誤っているもの」「不適切なもの」を選ぶ問題と、選択肢から2つ選ぶX2問題が増えたことで、問題の形式としては難易度が上がっている。このことで、他校では前年よりも合格率が下がったところが多い。

一方、内容面では例年とそれほど変わりはない。このことから、本校の学生は、内容の理解が進んでいたため、形式としては難易度が上がったにもかかわらず、昨年と比べて合格率が上がった(第53回国家試験、新卒者合格率 77.2%)と考えられる。

早い段階から国家試験問題に触れるなど、現在の国家試験対策が効果をあげているといえるが、そこについていけない学生もおり、今後もさらに検討していく必要がある。

3. 就職関係

学生と求人施設との接点を作るため、合同就職説明会を本校にて8月と11月の2回実施している。

現在、作業療法士に対する求人数は、首都圏では非常に多く、臨床実習も学生が就職してくれるのならばということで引き受けている施設が多い。このため、実習施設、とくに長期の実習である臨床実習Ⅱを受けてくれている施設に対する優遇処置として、第一回説明会の参加資格を臨床実習Ⅱ指導者会議出席施設と限定している。

参加施設数は、第1回が36施設、第2回が24施設であり、とくに第1回に関しては校内で実施できる説明会規模としては限界に近い。

課題としては、学生が関心を持つ施設に偏りがあり、多くの学生が集まるブースとそうでないブースがみられることである

IV 彰栄幼稚園

[教育計画]

1. 教育活動

- (1) 彰栄幼稚園では聖書を通じてキリスト教の精神である「愛の心」を学び、礼拝日々の祈り、幼児の讃美歌に触れることにより感謝をもって過ごすことの大切さを学ぶ保育を心がけた。
- (2) 幼稚園の保育における基本方針は、遊びを中心とした生活を通じて一人ひとりの個性を重んじ、「共に生きる」ことを学ぶことで、友だちとのふれあいや様々な経験から人間関係のあり方を学び合う保育であることを念頭に行われた。
- (3) 自由に遊ぶ体験の中から生じる幼児同士の様々な人間関係を通し、意欲的に自分の課題や活動に取り組む姿勢を育む保育を目指し、保育者の連携をもった。
- (4) 3, 4, 5才児各々の発達や理解にもとづく教育課程(安定、発展、充実)を踏まえて計画的な環境構成を整えるとともに、異なる年齢の幼児同士で互いに刺激を

受けあう縦 割り活動の実践に取り組んだが、継続が必要と思われる結果となった。

- (5) 幼児の興味関心に根ざした広汎な活動をさらに深めるねらいから、特別保育として運動遊び及びビリティミックに親しむ時間を設け、体力を養うこと並びに豊かな感性と表現力を育む活動を行った。

2.子育て支援

- (1) 子育て環境が変化する中で、様々な発達上の課題を有する幼児への個別の支援が増加しており、保護者の教育観を尊重しつつ当該幼児に寄り添う姿勢がより必要とされる。そこで幼児と保護者に対する支援を行ったが今後も継続する必要があると考えられる。
- (2) 保育期間中の時間外保育として早朝と降園後の預かり保育及び保育休業中の一部期間に預かり保育を行い、就労、介護、子育てのリフレッシュ等のための保護者ニーズに対応して行った。
- (3) 近隣地域の子育て支援を目的とする未就園児の会「たねさんひろば」を実施し、子育ての情報交換あるいは安心して乳幼児が遊べる地域の間として、幼稚園の資源を活用して、活動を行った。

3.保育行事等

- (1) 年間において、次の保育関連行事を計画通り行った。
 - 4月:入園式・始業式・イースター礼拝・個人面談と保護者会
 - 5月:親子遠足・内科検診
 - 6月:文京区私立幼稚園連合親子観劇・親子礼拝・卒園生同窓会
 - 7月:保護者会・宿泊保育・夏季休業
 - 8月:夏季休業・夏季保育
 - 9月:おじいさんおばあさんと遊ぶ会・保護者会
 - 10月:運動会・遠足・保護者保育参加
 - 11月:新入園児面接・創立記念日・わらし祭チャリティーバザー・感謝祭礼拝
オープンウィーク
 - 12月:保護者会・アドヴェント礼拝・クリスマス礼拝
 - 1月:個人面談
 - 2月:新入園児一日入園・親子で楽しむ日・わかば会カレーの日
 - 3月:防災館見学・保護者会・卒園遠足・お別れ会・卒園式・終業式

[研修計画]

1.キリスト教保育研修

- (1) 園内研修として、本学園宗教主任による聖書研究や礼拝に臨むための勉強会を毎年行っているが、本年も引き続き行った。
- (2) 園外研修では、キリスト教保育連盟夏季保育者研修が東京都にて実施のため参加した。

2.その他研修

- (1) 東京都私立幼稚園教育研修会による新規採用教員の月例研修への参加、並びに夏季宿泊研

- 修へ参加した。また、文京区私立幼稚園連合会による教員研修に専任教諭全員で参加した。
- (2) 各教諭による個人研修の参加を推奨し、夏季休業中に行われる幼児造形教育研究会の研修の他、各種団体による保育者研修を選択受講した。

[その他]

1.安全対策・危険防止

- (1) 施設設備の老朽が目立つ時期となり、かねてより懸案であった遊具更新を2017年度に取り組んだ。現在ブランコ木製柵が腐食しており補修が必要である
- (2) 1月末にインフルエンザによる学級閉鎖を1週間行った。現在室内除菌機器を職員室のみ設置稼働しているが、最も空気が悪い年中室に無償貸与器を増設し運転することを、提案検討した結果、1台導入した。また、従来コップ掛け・個人タオル掛けの利用により感染症予防に一定効果を上げていることが確認できた。

2.実習生受入れ

- (1) 本園は彰栄保育福祉専門学校と同じ校地にあり、彰栄学園創立時より「保育現場」と「教員養成」が両輪となり、その関係性は一体性をもつものとしている。この専門学校の教員養成課程における現場実務経験のひとつとして、今年度も保育科1年生全員の観察実習を本園にて実施した。

3. 文京区発達センター関係

- (1) 幼児の生活が多様化する中で、心身の発達がアンバランスな幼児が増加している。情緒面の発達には前出の心理担当教員の支援を受けている一方で、身体的発達に課題のある幼児については、文京区発達センターの作業療法士による指導を受けた。

4.広報活動

- (1) 前年度の入園に向けた広報活動は、事務と実務双方の効率化をはかることから入園説明会の回数と内容の見直し、合否判定と手続日のタイミングの見直しを行った。結果として出願数は減ったものの手続率は上昇に転じた。

V 表現研究所事業報告

彰栄表現研究所は学園の100周年を機に、学園の更なる発展を目指して1998年に設立し、以来今年で20年目の記念すべき年を迎えました。

研究所の主たる目的は、彰栄学園教職員が研究員として保育・介護・作業療法に関する表現を広く実践面の進歩活用に貢献する研究活動を行うことを目的としております。彰栄学園の保育福祉専門学校、リハビリテーション専門学校、幼稚園の三つの組織すべての教職員が研究員として関わり、それぞれの組織の交流を密にして共同研究を行い学際的な研究活動により社会に貢献することを目標としております。

研究成果は表現研究所紀要第1号(2001年)から第7号(2019年3月31日発行予定)で研究No.15『表現における身体性と造形性』発表を行い、計15件の研究成果を上げております。また、現在進行中の研究は2017年に立ち上げられた研究No.16『現代の保育者養成におけるわ

らべうたの必要性とその意義』があります。毎年表現研究所の活動内容について年報発行をもって報告しており、研究No.16の研究の途中経過についても表現研究所（紀要第7号と合本）年報にて報告しております。

表現研究所は事業内容の一環として研究所の企画・運営による表現に関する講座や研修会、交流会等も行い、開所から今年度で28件の事業開催（学園ホームページにて今まで開催事業の一覧掲示）を行って参りました。

30年度は夏休み直前の8月2日、主に本校保育科学生を対象に第25回『保育講座』を開催しました。講師に幼児教育研究会・会長、十文字女子大学名誉教授平田智久氏を講師として迎え『新しい保育観で生き抜くには・・・』をタイトルで、2017年度告示の新指導要領、保育指針の保育内容“表現“の考え方についてお話し頂きました。

もう一つ表現研究所は事業内容の一環として二十年間連続して開催しております事業に「コーヒーアワー」があります。この会は研究員間の交流や意見交換の場を目的とし、気軽に行う勉強会として開催して参りました。今年度は表現研究所開所20周年にあたり、その記念に相応しいイベントをこの「コーヒーアワー」でも開催したくこの「記念コンサート」を企画しました。例年ですと研究員のみ参加者ですが、今回は広く一般の方、学生にも呼び掛けた開催となりました。

11月8日「表現研究所創設20周年記念コンサート」はボーカリストの石井三榮子さん、ピアニストの岩崎良子さんのお二人をお迎えして『身体から表現する音と言葉による私達の音楽が、皆さんの心に響くことを願って』タイトルメッセージを頂戴して開催しました。

1部はスペイン古謡、2部は校歌讃美歌452番を参加の皆さんと共に讃美をして、日本の歌、ラテンスタンダード曲をたっぷりとピアノ演奏と歌を聞かせて頂きました。多くの参加の皆さんのアンケートにコンサートへ賞賛が寄せられ、良き20周年記念のコンサートになったことを報告させていただきます。